

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	15-091	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Prevalence of Alcohol and Other Substance Use in Patients with Eating Disorders. 摂食障害患者における飲酒と薬物使用の頻度について		
<b>執筆者</b>		
Fouladi F, Mitchell JE, Crosby RD, Engel SG, Crow S, Hill L, Le Grange D, Powers P, Steffen KJ.		
<b>掲載誌</b>		
Eur Eat Disord Rev. 2015 Nov;23(6):531-6. doi: 10.1002/erv.2410.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
摂食障害、薬物使用、無茶食い、排出・浄化		26415622
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 本研究の目的は、摂食障害の類型と飲酒・薬物使用との関連を調べることである。</p> <p><b>方法：</b> Eating Disorder Questionnaire に回答した 2,966 名を DSM-5 に基づいて各類型に分類した。</p> <p><b>結果：</b> 神経性食欲不振症食事制限型(anorexia nervosa restricting type)、無茶食い型(binge eating disorder)、その他の摂食障害(eating disorder not otherwise specified)に比べて、神経性過食症(bulimia nervosa)群は飲酒、薬物使用ともに頻度が高かった(p&lt;0.001)。神経性食欲不振症の食事制限型に比べて、無茶食い/排出・浄化型(binge eating/purging type)は飲酒(オッズ比 3.58、 p&lt;0.01)、薬物使用(オッズ比 30.14、 p&lt;0.01)ともに頻度が高かった。無茶食いと排出・浄化の頻度が高いほど、薬物使用の頻度も多かった。</p> <p><b>結論：</b> 摂食障害者において無茶食いや排出・浄化といった行動を呈する患者では薬物使用のリスクが高いことを治療に当たり留意すべきである。</p>		